



第2回 みんなで皆野まちおこし万博開催

2月22日(日)、新しいチャレンジが尊重される明るい風土を作ることとして「第2回みんなで皆野まちおこし万博」を開催しました。

当日は基調講演のほか、地域おこし協力隊の取組や大学・企業と連携した地域活性化の取組などを紹介しました。たくさんのかたのご協力のおかげで盛大に開催することができました。ありがとうございました。

開催主旨 黒澤町長

今までは町外へのPRに力を入れてきましたが、今町に必要なのは町内へのPR「インナープロモーション」だと考えています。「みんなで皆野まちおこし万博」は、町民の皆さんと、いや取組を共有することで、対話の中でいっしょにチャレンジする風土をつくっていくための場です。人口減少が進む中で、町では人と人とのつながりが少しずつ薄れてきています。しかし、外からの視点、新しい挑戦、そして地域の皆さんが積み重ねてきた経験が重なり合い、新たな動きが生まれ始めています。まずは互いの取組を知り、語り合うことからは、この町の未来をいっしょに考えていきたいと思えます。今日はそのきっかけとして、さまざまな挑戦に触れていただければ幸いです。

田口太郎氏による基調講演

「人口減少下での地域づくり〜外部の力も借りながら、地域の底力を強くする〜」

私はいま徳島大学で教員をしていますが、実際には徳島県の小さな村に移り住み、地域の中で暮らしながらまちづくりを考えています。人口減少が進む中で、地域では「どうやって人を増やすか」という議論がよく行われます。しかし、人口だけを増やすことが本当に地域の幸せにつながるのか、という点は改めて考える必要があります。

これまでの地域政策では、移住者呼び込んだり、外に向けて地域の魅力を発信したりすることが重視されてきました。もちろんそれも大切ですが、私が重要だと思っているのは、地域の内側に目を向けることです。地域に暮らしている人たちの生活が豊かで、安心して暮らせる環境があることが、結果として地域の魅力につながっていきます。

人口が減ること自体を過度に悲観する必要はありません。大切なのは、地域の中で無理をしている人や負担を抱えている人がいないかを見つめ直し、支え合える関係をつくることです。そして、地域の外から関わる人たちともつながりながら、新しい力を取り入れていく。そうした関係が広がっていくことが、これからの地域づくりにとって重要だと考えています。

(一部を抜粋)



徳島大学大学院教授
田口 太郎 氏